	農学部生物資源学科
DP	生物資源学科は、本学の立学の精神と学部の人材養成目的「生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成」および学科の人材養成目的「生物資源の生産、開発および利用に関わる専門知識と技術をもとに、広い視野と論理的な思考により、農と食の分野において地域から国内外に至る社会の持続的な発展に貢献できる、人間性豊かな人材の養成」に基づき、次の資質・能力を身に付け、卒業に必要な124単位以上を修得した学生に対して、学士（農学）の学位を授与します。 ①高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けている。 ②生物資源学（栽培植物生産学、分子生物情報・育種学、生物保護学、経営・経済学）に関する高度で幅広い専門的学識と基本的な解析技術を修得し、社会の持続的な発展の方向性について思考する能力を身につけ、農と食に係わる科学的背景を深く理解した上で、農業技術やバイオテクノロジーの効果や影響を多面的に捉えつつ社会に貢献できる。 ③栽培植物生産学、分子生物情報・育種学、生物保護学、経営・経済学の分野における課題探求能力および問題解決能力を有し、生涯にわたって主体的、自立的に学びを継続しながら、農業・食品・バイオ関連産業、農業関連行政、教育などの分野において人と連携しながら共に成長することができる。
CP	生物資源学科は、学科の人材養成目的を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、教養教育部門と専門教育部門からなる教育課程を編成しています。それぞれの部門において一定数以上の単位数を修得することを義務付け、 高い教養と幅広い基礎知識を基盤として、様々な分野で活躍できる能力を身に付けさせることを目標としています。 ①教養教育部門は、基軸科目、人文社会科目、自然科学科目、言語コミュニケーション科目、情報技術科目、健康とスポーツ科目、キャリア教育科目から編成され、高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けさせる。 ②専門教育部門は、基礎教育科目群と専門教育科目群から編成され、基礎から応用へ段階的に学修できるように各科目が体系的に配置されている。また、講義による理論・知識の教授だけでなく、実験・実習・演習を通して自ら学ぶ力を養成する。すべての科目において、学生と教員による双方向型授業を充実させ、自発的な学修態度を身に付けさせる。 ③学科専門教育の集大成として、3年次に学生を研究室に配属し、4年次において担当教員による指導の下で卒業研究を行わせる。卒業研究は各学生が研究テーマを選択することにより個性を尊重する教育の場ともなっている。また、実際に卒業研究を遂行するにあたって教員や他の学生との議論を通して、様々な情報を基に研究計画を立案させる。さらに実験・解析を行わせ、得られた研究成果を取りまとめて学年末に卒業研究発表会において発表させる。これら一連の作業により課題探求能力、問題解決能力、実践力、表現力、倫理観および協調性を身に付けさせる。 ④本方針を有効に機能させ、学びの質を向上・深化させるために、各学年の履修登録単位数に上限を設け、3・4年次への進級基準単位数も設定している。また、開講科目については、シラバスにより授業計画、学修到達目標、成績評価基準などを公表している。さらに、学位授与方針に対応したポートフォリオや学修結果を各学生に作成・分析させ自学自修に活用させるだけでなく、国際的な成績評価制度（GPA）を導入して指導教員による学修指導に利用している。
AP	生物資源学科は、学科の人材養成目的を理解し、高等学校などにおける学習を通して、次の能力・態度を身に付けている人を受け入れます。 ①学科での学修の基盤となる生物、化学、物理、数学、国語、英語などに関する基礎知識と応用力を身に付けている。 ②農産物の生産・利用技術、データサイエンスを用いた植物バイオテクノロジー、多様な生物資源の生理機能とその相互作用、作物生産における病害虫防除、食・農業・農村が直面する社会経済問題に関する学問を学ぶことに強い関心と意欲を持っている。 ③課題探求活動に積極的に取り組み、主体的、継続的、協調的に学修する力を身に付け、生涯にわたり学び続ける意欲を持っている。
アセスメント・ポリシー	生物資源学科は、次の内容によって学修到達目標の達成状況を確認し、教育の改善を図ります。ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の各項に該当する科目群ごとのGPA の数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査および学生アンケートにより評価する。 科目レベルでは、シラバスに記載されている方法に基づいて成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。 また、卒業研究では、得られた知見をまとめた卒業論文および卒業研究発表会でのプレゼンテーション等から、学修成果の達成状況を評価する。